

# 令和元年度 学校評価シート

学校名：和歌山工業高等学校(全日制) 学校長名：西村文宏 印

めざす学校像 育てたい生徒像	生徒が輝く学校、地域とともにある学校、教師が夢を語れる学校の3つの基本姿勢のもと、生徒・保護者・地域・教職員にとって魅力ある工業高校を目指す。
本年度の重点目標 (学校の課題に即し、精選した上で、具体的かつ明確に記入する)	<p>1 工業高校の専門性を生かした資格取得や地域貢献活動を積極的に推進することで、職業人として必要な資質・能力を育む。</p> <p>2 部活動や自主活動の振興を一層図ることで、職業人として必要な豊かな人間性を育む。</p> <p>3 生徒に向上心を持たせたり主体的に活動させたりする場面のある授業づくりを推進するとともに、キャリア教育の一層の充実を図る。</p>

中期的な目標	<p>○規律の中から生まれる自立心を基盤として、確かな学力の定着を図るとともに、ものづくりに関する創造性を伸ばし、自ら学び続ける力を育成する。</p> <p>○キャリア教育の充実に取り組み、希望する進路を実現するため、主体的に進路選択ができる力を育成する。</p> <p>○地域連携や地域貢献を軸に、地域とともにある学校づくりの具体化に取り組む。</p>
学校評価の結果と改善方策の方法	自己評価及び学校関係者評価の結果を、ホームページに掲載することで、保護者をはじめ広く公表していく。

達成度	A	十分に達成した。(80%以上)
	B	概ね達成した。(60%以上)
	C	あまり十分でない。(40%以上)
	D	不十分である。(40%未満)

(注) 1 重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目を設定する。 2 番号欄には、重点目標の番号を記入する。 3 評価項目に対応した具体的取組と評価指標を設定する。  
 4 年度評価は、年度末(3月)に実施した結果を記載する。 5 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を行う。

自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価		
重 点 目 標					年 度 評 価 ( 3 月 1 3 日 現 在 )		
番号	現状と課題	評価項目	具体的取組	評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善方策
1	専門的技能の習得に効果のある資格取得や工業高校の専門性を生かした地域貢献活動等の取組をとおり、職業人として必要な資質・能力を育む必要がある。	和工スタンダードを活用して資格取得率を高め、地域貢献活動にも取り組むことで、生徒の知識・技能を向上させているか。	和工スタンダードを活用して資格試験の合格者・合格率を向上させる。 ジュニアマイスターの受賞人数を増加させる。 小学校等への出前授業や地域貢献の取組を推進する。	資格試験の合格者数・合格率を400名・60%(昨年度376名・54%) ジュニアマイスター受賞人数30名程度(昨年度26名) 出前授業等の取組5回程度	○資格試験の合格者は349名、56%であったが、技能検定や検定試験も含めると1067名合格、58%の合格率であった。 ○ジュニアマイスター受賞人数は27名、内ゴールドが5名(特別表彰4名)であった。 ○出前授業の取組6回、地域貢献活動としてラグビー部26回、各科、クラブ13回。	B	○合格者数や合格率向上は図れなかったが、ジュニアマイスターでは特別表彰者を出すことができた。引き続き和工スタンダードを広く活用しての向上を目指す。 ○他校種や地域との連携をさらに強化し、本校の特色を最大限に生かした地域貢献を目指す。
2	全国高校総体や近畿大会等に多くの生徒を出場させている実績を生かし、部活動と学習活動の両立を図りながらより高いレベルの目標達成を目指すことで、豊かな人間性を育む必要がある。	競技力と人間力をバランス良く向上させる取組を推進するとともに、全職員が一体となって生徒指導に取り組んでいるか。	大会やコンクール等における成果を充実させる。 効果的な練習方法の研修や強化会等に積極的に参加する。 通学マナー、身だしなみ、ネット利用マナー等、規範意識の向上に向けた指導を徹底する。	近畿大会、全国大会等への出場者数50人程度 研修、強化会等への参加5回程度 街頭指導を月2回、身だしなみ指導を学期1回程度、ネットパトロールでの指摘数が年間50件程度以内	○全国大会出場はインターハイ、国体、冬の大会等を含め、8クラブのべ97名と目標を大幅に超え、ヨット・ウエイトリフティングは全国入賞を果たした。 ○研修、強化会等へは各クラブで1回以上参加。 ○街頭指導は月2回、身だしなみ指導は各学年4回。ネットパトロールについては、116件(昨年度75件)。	B	○部活動の充実については、引き続き学習活動との両立も図りながら進めていく。 ○問題行動は減少しているが、服装等の乱れやSNS等不適切な利用がある。今後とも職員一丸となり組織的に指導に当たる。
3	授業への取組姿勢を前向きにし、活動内容や成果を発表する機会を増やすとともに、キャリア教育を充実させることで、早い段階から就職・進学に対する意識を強くする必要がある。	生徒に向上心を持たせたり主体的に活動させたりする場面のある授業づくりを推進するとともに、インターンシップや進学説明会等により進路意識を高められているか。	研究授業及びICTを活用した授業を実施する。 生徒が発表や議論を行う授業を実施する。 生徒の進路選択につながるインターンシップ及び進学説明会を実施する。	研究授業を10回、スマート教室の稼働率30%程度 課題研究等の発表会を10回程度(昨年度9回) 進学説明会2回、インターンシップ時の産業系企業割合60%程度	○研究授業は各科各教科で計16回(昨年度2回)。スマート教室1～4の稼働率は40%程度。 ○課題研究の発表会は3年全クラスと2年2クラスで計12回。 ○進学説明会は1・2年合同と3年で計2回。インターンシップ時の産業系企業割合は89%。	B	○研究授業については、授業アンケート等を活用しながら、生徒が主体的に取り組み、ICTも活用した授業の促進を進めていく。 ○インターンシップの受入先企業を学校斡旋ですすめたため、産業系企業割合が大幅向上した。生徒の進路選択のためにも継続していく。

学校関係者からの意見・要望・評価等
<p>令和 2年 2月10日 実施</p> <p>&lt;生徒評価&gt; 肯定的評価66.2%。 積極的に発表や議論をする授業、ICTを利用した授業、現場見学を活用した授業等の推進が必要である。</p> <p>&lt;保護者評価&gt; 肯定的評価が向上(74.3%(昨年度69.4%))。ただし、「家庭との連絡が適切に行われている」「生徒が授業内容を理解し基本的な事が身に付いている」「地域連携が充実している」については「どちらともいえない」が40%程度ある。家庭との連絡を密にする連携が必要である。</p> <p>&lt;学校運営協議会委員評価&gt; 肯定的評価が向上(94.1%(昨年度80.0%))。本校には他校にはない魅力があり、地域連携が充実したという意見、特別支援学校との連携を今後も進めてほしいという意見、授業に臨む姿勢については改善が必要であるとの意見があった。</p>